

新約聖書（第二ヨハネの手紙）を読む

蔵谷 哲也

An Exposition of the Second Epistle of John

Tetsuya KURATANI

本稿は2018年2月9日、四国大学古川キャンパスにおける SUDAchi 講座で語った内容に修正・加筆したものです。¹ 当日配布された資料には、ほとんど出典が記載されていなかったため、ここに追加してあります。聖書研究をさらに進めるきっかけになると幸いです。

スライド 1

新約聖書 (第二ヨハネの手紙)を読む

2018年2月9日

ここで使われる主な聖書は新改訳聖書

まず、スライド2を見ながら、第二ヨハネの手紙全体を朗読しましょう。聖書では、1ページ内に収まる短い手紙です。目と耳と口を使う音読によって内容をよりよく理解することが期待できるからです。同じ内容であっても、自分で黙読して理解できなかったことが、音声で耳で聞くことによって理解できることがあります。聖書はキリストについて書かれた神の御言葉です。世の中が発信する情報ではなく、聖書からキリストについてより正確に学ぶ必要があります。²

スライド 2³

新改訳聖書 第二ヨハネの手紙	
1	長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ、私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。
2	このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつも私たちとともにあります。
3	真理と愛のうちに、御父と御子の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。
4	あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちに歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいます。
5	そこで夫人よ、お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。
6	愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちに歩むことです。
7	なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大勢い世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。
8	よく気をつけて、私たちの労苦の実をいなしにすることなく、豊かな報酬を受けるようになりなさい。
9	たれても行き過ぎずして、キリストの教えのうちにとどまらぬ者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。
10	あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばを掛けてもなりません。
11	そういう人にあいさつすれば、その悪い行いをもとにもすることになります。
12	あなたがたに書くことがたくさんありますが、紙と墨で書くことはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語り合いをしたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。
13	選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたがたによろしくと言っています。

スライド 3

この手紙の要約

- この手紙は高名な夫人に宛てられている。
- この夫人は、主に対する畏れを持って、子供たちを育てた。
- 手紙の著者は、この夫人がキリストの愛の中にとどまり続けるように奨励している。
- そして、キリストの愛の中において、反キリストと同行せず、反キリストを避けるように熱心に勧めている。

スライド3では、この手紙の要点を箇条書きしました。このような要約は、例えば、1599 *Geneva Bible* の各章のすぐ下についています。⁴ スライド3の内容を別の観点から表現すると、要点は真理と愛がキリストに従う基本であり、偽教師に対して注意することです。

スライド 4

主題と構造

- 第二ヨハネの手紙は第一ヨハネの手紙と多くの共通点を持つ。
 - 神はイエス・キリストとなってこの世に現れたとする教義<顕現(けんげん)>を否定する偽教師の危険に対する警告
 - 愛の内を歩み続けることの奨励
 - 愛の表現における識別の忠告
- 第二ヨハネの手紙は2つの部分に分けられる。
 - 神の命令にとどまり続けること(1~6節)
 - 偽預言者にとどまってはいけないこと(7~13節)

スライド4で偽教師が語ることの間違いの一つは、「イエス・キリストは神ではない」という主張です。イエス・キリストは人間と同じ肉の体をもって地上に來られました。100%人間であり、100%神です。

第二ヨハネの手紙は、ある敬虔なキリストにある婦人に向けられて書かれたものです。しかしながら、この手紙の内容はすべてのキリスト教徒にも適用できます。また、偽教師に関する警告を敬虔なキリストにある姉妹にすることにおいて、厳格に警告するものではなく、愛を持って注意すべきことを告げています。⁵

スライド 5

第二ヨハネの手紙の概略

- I. 神の命令に留まりなさい.....1-6
 - A) 挨拶の言葉.....1-3
 - B) 真理の中を歩む.....4
 - C) 愛の中を歩む.....5,6
- II. 偽教師に留まらない.....7-13
 - A) 偽教師の原理.....7-9
 - B) 偽教師を避ける.....10,11
 - C) 祝祷.....12,13

スライド5で、このわずか1章から成る手紙は2つの部分から構成されていることが分かります。このように区分すると、2つの部分は分離しているように見えますが、実は繋がった内容です。6節では、「愛とは、御父の命令に従って歩むことであり」と述べられ、7節では「なぜお願いするかと言えば」

と書いてあります。つまり、6節と7節は文脈上つながっているのです。

スライド 6⁶

第二ヨハネと第三ヨハネの手紙

- 聖書の中で最も短い書簡ではあるが、これら2通の1章から成る書物は教会に関連を継続的に持ち続けている。
- 第二と第三ヨハネは同じような状況を反映していて、同じような内容を持っている。すなわち、著者は偽教師や利己的な教師に対して警戒している。そして、真の信者に対して奨励の言葉を述べている。
- 特に第二ヨハネの手紙は、教会や自宅に異端者を受け入れることについて警告しているが、第三ヨハネの手紙は、キリストにある兄弟との交わりを奨励している。

スライド6では、第二ヨハネの手紙や第三ヨハネの手紙の共通点についてです。これらは、個人宛の手紙というよりは、すべての神の御体なる教会に属するすべてのキリスト者向けに書かれています。これらの手紙の共通点は、偽教師は分裂をもたらすという警告をしていることです。

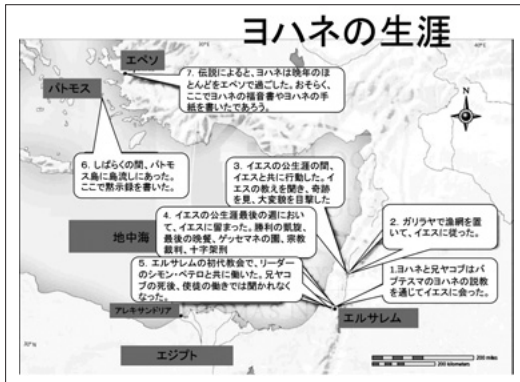
スライド 7⁷

第二ヨハネと第三ヨハネの著者

- 著者は自分自身のことを「長老」と呼んでいる。このことはこれらの手紙の著者がヨハネであるということに対する反論ではない。なぜなら、この長老の権威は一教会の一長老の権威よりもはるかに大きなものであることをこれらの手紙の内容が明らかにしているからである。使徒ペテロも自分自身のことを長老と呼んでいる(第一ペテロ5章1節)
- 第二ヨハネと第一ヨハネの手紙の間で、文体、語彙、構造、傾向の類似性があることは、これらの手紙が同じ著者によって書かれたものであることを明らかにしている。付け加えると、両方の手紙(特に第二ヨハネ)は第一ヨハネの手紙とヨハネの福音書と大きな類似点を持っている。このようにして、内証は、これらの手紙は使徒ヨハネによって書かれたという伝統的見解を明らかに支持している。

スライド7では、第二ヨハネの手紙は、おそらく12使徒の一人が著者であると考えられることを示しています。第二テモテの手紙3章16節に、「聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。」と書かれてあります。つまり、聖書を神の御言葉として受け取る時に、聖書の著者が一体誰であるかを論じる必要はほとんどないのです。しかしながら、学術的には誰が著者かを知ることは重要かもしれません。

スライド 8⁸



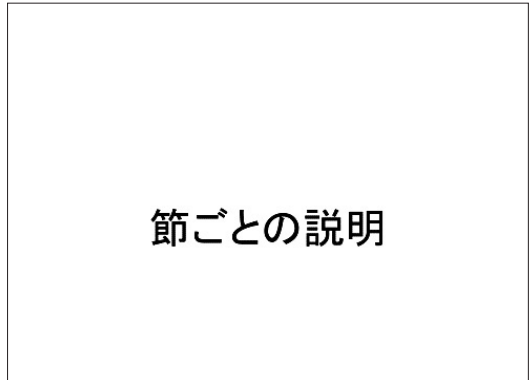
スライド8の吹き出し1を見ましょう。ヨハネは、バプテスマのヨハネを通してイエスの弟子になったことが、ヨハネによる福音書1章35～37節に示唆されています。つまり、これらの節の中で、ふたりの弟子がイエスについて行く旨が書かれています。このうちの一人はアンデレ（ヨハネの福音書1章40節）であると書かれています。もう一人は、ヨハネ、もしかしたら、ピリポかもしれません。⁹

吹き出し2をご覧ください。ガリラヤ湖の船の中で網を繕っていたヤコブとヨハネは、イエスに呼ばれて、イエスに従いました。¹⁰ ちなみに、ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネはボアネルゲ、すなわち雷の子という名前をイエスからつけられています。¹¹

吹き出し3では、ヨハネはイエスの公生涯の間、イエスと行動を共にして、イエスの教えを聞き、イエスの起こされた奇跡を見、イエスの大変貌を目撃しています。¹² それから、イエスの公生涯の最後の週においても、主に留まっています。つまり、イエスのエルサレム入城、最後の晩餐(逾越の食事)、ゲッセマネの祈り(オリブ山にある)¹³、宗教裁判、十字架刑を見聞きしたのです。¹⁴ イエスが死の呪いを打ち破り、復活されて、多くの弟子たちの前に現れ、それから天に帰られた後、ヨハネは、ペテロと共に、エルサレムの初代教会でリーダーとして働いています。¹⁵ ヨハネはエルサレムにいる使徒たちとの関わりを持っています。¹⁶ ところが、吹き出し5にあるようにヨハネの兄弟ヤコブが殺されてから、使徒の働きの中では、消息が途絶えてい

ます。¹⁷ 次に吹き出し6にあるあるように、ヨハネはしばらくの間、パトモス島に島流しにされています。ヨハネは神のことばとイエスのあかしゆえに、エーゲ海にある孤立した小さなパトモス島に導かれたと聖書には記述されています。¹⁸ 言い伝えによると、ヨハネは晩年の多くをエペソで過ごし、そこでヨハネによる福音書や手紙をおそらく書いたと思われる。¹⁹

スライド 9



節ごとの説明

それでは、この手紙を1節ずつ検討していくことにします。

スライド10

1.1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。

・長老

- ・ヨハネのこと
- ・なぜヨハネが自分を「長老」と呼んでいるのか
- ・霊的に教会の指導者であるが、
- ・同時に、この手紙を書いているとき、彼が90歳以上の年寄りだから。
- ・自分の晩年に、残された人々に伝えたい大切なことを、この手紙に託している。
- ・12使徒の中で、ヨハネだけが残されて老齢に達し、キリスト教界の大監督であるから、「長老」という名称は適切である。

スライド10では、この手紙の著者は長老と名乗っていますが、この長老とは、おそらくヨハネであろうということを示しています。第三ヨハネの手紙でも著者は長老と名乗っています。長老という言葉が示唆することは、その他のクリスチャンよりも年齢が高いことや、信仰の個人的知識においても、彼らよりもはるかに多いということです。²⁰ 第一ペテロの手紙5章1～4節に長老の役割が書かれていま

すが、まさに、ここで長老と名乗る著者の役割と同じであります。

スライド11

この手紙を書いたと思われるヨハネとは

- 12使徒の一人
- 使徒の中で最初に殉教した『ヤコブ』の兄弟。
- この手紙を書いたと思われる『ヨハネ』は、十二使徒のひとりであり、使徒の中で最初に殉教した『ヤコブ』の兄弟
 - 使徒12:2—ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。
- 父はゼベダイで、マルコの福音書によれば、雇い人までいるかなり裕福な漁師の家だったことがわかる。
 - マルコ1:19-20—また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。
 - すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちといっしょに舟に残して、イエスについて行った。
- ヨハネとヤコブの兄弟は、イエスから『雷の子』という名をつけられた。
 - マルコ3:17—ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネ、このふたりにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。

スライド11では、この手紙の著者であると考えられるヨハネのいくつかの特徴を聖書から顧みています。スライド8で紹介した内容と一部重複しています。ここで興味深い点を申し上げますと、ヨハネはかなり裕福な漁師の家の者でしたが、イエスに呼ばれると、裕福な生活を置いて、イエスに従ったことが、マルコの福音書1章19～20から読み取れることです。

スライド12²¹

1.1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。

- **選ばれた夫人：**
 - 「エレクタ(Electa)という名の夫人」という説がある
 - 「教会」という比喩的表現

スライド12は、1節で「選ばれた夫人」とは一体誰なのかを告げています。13節に「選ばれたあなたの姉妹」という同様な表現が使われており、こうした表現は教会の隠喩であると考えられる人もいます。²² さらに、それは教会全体であるか、特定のキリスト教社会であるという考えもあります。²³ the elect Kyria や the lady Electa や Electa Kyria といった肩書を示唆する個人的な名前であると思索する注釈者

もいます。²⁴ 結局、このことに関しては、決定的な結論には到達できないようです。

スライド13²⁵

1.1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。

- 「その子どもたち」とは
 - 文字通り子どもたちを意味する
 - この夫人の子どもたちである
 - この手紙で宛てられた共同体のメンバー

スライド13は、1節に出てくる「その子どもたち」とは、誰を指しているかについてです。彼らはこの夫人が面倒を見ている子どもたちのことかもしれませんが、教会に集うキリスト者のことかもしれません。²⁶ 聖書はたとえで書かれていることがあります。神を熱心に探し求める者は、たとえの奥義を知りますが、神の御言葉に興味も畏敬の念もない人には、たとえが何を意味するか理解できません。²⁷

スライド14

1.1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。

- 「ほんとうに愛しています」
- 「真理のうちに愛しています」と訳すことができます。英語ですと、“We love you in truth.”です。
- 「真理を知っている人々がみな、そうです。」
 - 教会は、自分が真理のうちにとどまっていて、同じように真理のうちにいる人たちと共に分かち合い、愛し合う共同体です。

「あなたがたをほんとうに愛しています」と書かれています。欽定訳聖書であれば、I love in the truth と訳されています。キリストについての新約聖書の啓示と調和した方法で、ヨハネは他者を愛し、配慮しています。神の御言葉の真理に傾注せずに、愛を他人に示すことは可能ですが、そうすることは、神の命令や真理より、愛、受容、友情、調和を重んじることになります。一方では、教会のある人が、他

人に対して愛や配慮することなく、聖書的真理を促進し、聖書教理を守ることが可能です。だから、神が求めておられることは、神の真理に対する愛と他人に対する愛の両者を実際にやってみせることです。²⁸ エペソ人への手紙4章15節で、「むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです」と書かれています。²⁹

スライド15

1.2 このことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも私たちとともにあります。

・真理

- ・キリストご自身。聖書の神のみことば。
- ・偽教師の嘘と対照される。

・ヨハネによる福音書14章6節

- ・イエスは彼に言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」

スライド15の真理とはイエス・キリストのことです。イエス・キリストは、キリスト者と永遠に共にいて下さることが語られています。

スライド16

1.3 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。

・「恵みとあわれみと平安」

- ・パウロ書簡では、例えば、ガラテヤ人への手紙1章3節で「どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように」と祝福のあいさつをしている。
- ・ヨハネは「あわれみ」を祝福のあいさつの中に含めている。

スライド16の3節はヨハネの祈願です。恵みとあわれみと平安の源は他ならぬ神御自身です。恵みとは、ふさわしくない者に対する恩恵の泉であり、あわれみとは、罪の赦しにおいて、その恩恵が個々に適用されることであり、すべての惨めさからの救援です。平安とは、神が人と共におられることによる魂の平穏です。³⁰

スライド17

1.3 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。

・「平安」とは

- ・わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。(ヨハネの福音書14章27節)

スライド17では「平安」とは何かをヨハネの福音書14章27節から考察しています。これはイエス・キリストのお言葉です。イエスが与える平安はこの世が与える平安とは違います。どのように違うのでしょうか。この世が与える平安とは、名誉、財産、環境などです。これらのものがあると、安心するかもしれませんが、名誉も財産も環境も一時的なものであり、いつかは過ぎ去ります。地上を去るとき、持っていくことができないものばかりです。では、イエスが与える平安とは何でしょうか。仮に問題の真ただ中においても、神様がともにおられるから、大丈夫という信仰に立つ平安のことです。

スライド18³¹

1.3 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。

・「真理のうちに」だけでなく、「真理と愛のうちに」とヨハネが書いています。

- ・真理のうちにとどまって、その中で互いに愛し合う関係が大切になります。エペソの手紙4章15節には、「愛をもって真理を語り」とあります。
- ・神から来る恵みとあわれみと平安を受け取る条件とは、真理を守ること(7～11節)と兄弟を愛すること(5～6節)です。

スライド18では、「愛と真理」という言葉が出てきます。スライド14の説明で上述したように、真理である神の御言葉に傾注して、愛を实践することが必要だからです。

スライド19

1.3 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キリストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。

・「御父と御子の御子」

- 他の使徒たちの手紙では、「父なる神と主イエス・キリスト」という言葉がよく手紙の冒頭のあいさつ文で使われています。
- イエスが神の御子であり、御父のふところに永遠からおられる、独り子としての神という真理が、ここには示されています。

スライド19では、「御父の御子」という言葉が使われています。御父の御子の役割とは何でしょうか。ヨハネの福音書1章18節に「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。」と書いてあります。さらに、「御父と御子」を否定する者が、反キリストであり、反キリストに関する話は7節で出てきます。その関連もあり、「御父と御子」という言葉が使われています。³²

スライド20

1.4 あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちは歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいきます。

・「あなたの子どもたちの中に」

- 「この夫人のすべての子どもなかの数人」という意味
- 親の信仰がその子供たちすべてに継承されるわけではない

親	子ども
アダム	ケイン
アブラハム	イシュマエル
イサク	エサウ

スライド20には「あなたの子どもの中に」と書かれています。よい両親は必ずしも、良い子供たちを持つとは限らないのです。少なくとも、すべての子どもたちが良いわけではありません。アダムの子どもには、ケイン、アブラハムの子どもにはイシュマエル、イサクにはエサウがいたことを思い出しますね。³³

スライド21

1.4 あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちは歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいきます。

・非常に喜んでいきます

- 著者が喜んでい理由は、子どもたちの中に神の命令のとおり真理のうちは歩んでいる者がいることを知ったからです。
- この「命令」とは
 - イエスは復に答えられた。「だれでも、わたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしはわたしの父のところにきて、その人とともに住みます。」
 - わたしを愛さない人は、わたしのことばを守りません。あなたが聞いていることばは、わたしのものではなく、わたしを遣わした父のことばなのです。(ヨハネの福音書14章23～24節)

スライド21では、著者がなぜ非常に喜んでいのか、その理由を挙げています。ちなみに御父とは、父なる神のことです。

スライド22

1.4 あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちは歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいきます。

・キリストに導かれた人々が真理のうちは歩み続けるのを知ると、長老であるヨハネは喜びで満たされます。

- 真理のうちは歩み続けることは、必ずしも、うれしいことばかりではありません。
- キリストを信じるとは、「キリストを信じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜った」と教えています(ペリピンへの手紙1章29節)。
- これは、キリストの福音にふさわしく生きようとするときに、この世においては、苦しみや困難を受けることがあることを教えています(ヨハネの福音書16章33節)。

スライド22では、なぜ真理のうちは歩むことが喜びなのか説明しています。

スライド23

1.4 あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおり真理のうちは歩んでいる人たちがいるのを知って、私は非常に喜んでいきます。

・「歩んでいる」というのは、ユダヤ人の常套句であり、「生きている」という意味です。

- 真理によって生きること。換言すれば、神の啓示された御言葉と御心に沿って生きることです。

スライド23では、「真理のうちは歩む」とはどんな意味か、換言して説明しました。

スライド24

1.5 そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。

- そこで
 - ・欽定訳聖書ではAnd nowと訳されています。これによって、この手紙の趣旨がこれから導入されることがわかります。
- お願いしたいことがあります
 - ・ヨハネは、命令するのではなく、願っています。
 - ・霊的権威があるにも関わらず、懇願する姿勢を取っています。
 - ・真の霊的指導者の謙虚な姿であると思います。

スライド24では、「そこで」という言葉から、この手紙の趣旨である「互いに愛し合いなさい」という重要メッセージが語られています。ただし、命令ではなく、懇願という形を取っています。

スライド25

1.5 そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。

- 「夫人」とは
 - ・キリスト教会。
 - ・または文字通り取れば、手紙の受取人達。
 - ・広義に解釈すれば、新約聖書を読むすべての人々のこと。

スライド25では、この手紙の受取人である「選ばれた夫人」に向けて、「そこで夫人よ」と語られています。この夫人とは誰を指すのかをここで少し説明しています。

スライド26

1.5 そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。

- 古くて同時に新しい命令とは
 - ・「互いに愛し合いなさい」
- ヨハネの福音書13章34節で、イエスは以下のように述べられました。
 - ・あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。
- レビ記19章18節に、同様な内容が書かれています。
 - ・復讐してはならない。あなたの国の人々を恨んではならない。あなたの隣人をあなた自身のように愛しなさい。私は主である。

スライド26では、古いと同時に新しい命令とは何であるかを聖書箇所から示しています。ヨハネの生涯の後半までに、この命令はもはやあまり新しい命令ではなくなっていますが、この命令はキリスト者の生活を変革し、新しいものと継続的にし続けているという意味で、実際のところ、いつであっても新しい命令であり続けています。³⁴

スライド27

1.5 そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。

- 「互いに愛し合う」
 - ・わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。(ヨハネの福音書15章12節)
- 「互いに愛し合う」とは真理のなかにとどまる人々への命令
 - ・過越の食事でユダが席を離れた後に、イエスさまが残された弟子たちに話されました。
 - ・あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。(ヨハネ13章34～35節)

スライド27では、「互いに愛し合う」とは真理のうちを歩む人々たちに対する命令であることがわかります。特にヨハネの福音書では、過越の食事（いわゆる最後の晩餐）で、イスカリオテ・ユダが席を離れた後で、弟子たちに互いに愛し合いなさいとイエスが命令されました。

ここでついでながら、皆さんは、「真理がわれらを自由にする」ということを聞いたことがあると思います。聖書からの誤った引用です。ヨハネの福音書8章31～32節には以下のように書かれています。そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われ

た。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」 イエス・キリストの弟子となり、みことばにとどまることが、真理による自由の前提になっていることが分かります。

スライド28

1.5 そこで夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのではなく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合うということです。

・ヨハネは「互いに愛し合いなさい」と何度も繰り返しています。ヨハネだけでも聖書に登場する箇所は13カ所ですが、そのうち、10回命令しています。

聖書箇所	出現回数
ヨハネの福音書	4
ローマ人への手紙	1
第一テサロニケ人への手紙	1
第一ペテロの手紙	1
第一ヨハネの手紙	5
第二ヨハネの手紙	1

スライド28は、「互いに愛し合う」ことが、聖書に繰り返して登場し、重要な教えであることを示しています。

スライド29

1.6 愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちは歩むことです。

・愛とは

- ・「神は愛です」(第一ヨハネの手紙4章8節)
- ・「こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。(第一コリント人への手紙13章13節)」
- ・「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを耐え忍びます。(第一コリント人への手紙13章4～7節)」

スライド29では、愛に関する聖書箇所を紹介しています。特に「愛は寛容であり、愛は親切です..」の箇所は、結婚式の式辞で頻繁に聞くことですね。

スライド30

1.7 なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。

・惑わす者とは、

・グノーシス主義者

- ・神の子イエス・キリストの受肉を否定する者
- ・霊は純粋で神秘的なもの、肉(物質)は罪悪性を持ち墮落したものとして、イエスは神と人の両方でありえないと論ずる

スライド30では、惑わす者とは、文脈から、グノーシス主義者と考えられます。その他の惑わす者とは、イエス・キリストが永遠に神の御子であり、乙女マリアを通して地上に来られたことを否定する者です。また、イエス・キリストの血潮はイエス・キリストを信じるすべての人々の罪を赦すことを否定する者も、惑わす者です。

スライド31

1.8 よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。

・労苦とは

- ・イエス・キリストに忠実に仕えること
- ・キリストの福音のための働き
- ・救いを受け取るための行いではない

・労苦の実とは

- ・福音伝道により、神の家族が増えること

・報いとは

- ・聖徒が働きの応じて、主から与えられる報酬:
- ・「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えてくる。(ヨハネの黙示録22章12節)」

スライド31では、「よく気をつけて」と書かれています。惑わす者に対して気をつける必要があることは言うまでもありません。

スライド32

1.8 よく気をつけて、私たちの労苦の実をだいなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。

・ 労苦の実をだいなしにする

- ・ 自分自身のために生き、間違った原理を教え、自分自身のために生きることを正当化すると、労苦の実を失います。
 - ・ その根拠は以下の聖書箇所（マタイによる福音書7章21～23節）
- ・ わたしに向かって、『まよ、まよ。』と言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこころを行なう者がはいるのです。
- ・ その日には、大ぜいの者がわたしに言うでしょう、『まよ、まよ、私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によって悪業を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたぐん行なったではありませんか。』
- ・ しかし、その時、わたしは彼らこうを告げます、『わたしはあなたがたを全然知らない、不法をなす者ども、わたしから離れて行け。』

スライド32では、労苦の実をどうして失うことがあるのかという説明です。9節以降には、労苦の実を失う行為に関する警告が続きます。

スライド33

1.9 だれでも行き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていません。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子も持っています。

・ 行き過ぎをして、キリストの教えにとどまらない者：

- ・ 聖書にないことを言ったり、私的解釈を広める者。
- ・ ヨハネの黙示録22章18～19節では以下のように書かれています。
 - ・ 私は、この書の預言のことは聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。
 - ・ また、この預言の書のことは少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

スライド33では、神の御言葉である聖書の上に信仰を持って生きる必要があることを述べています。「キリストの教えにとどまらない者は、神を持っていない」とは、その者は救われた者ではないということです。

スライド34

1.10 あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。

・ キリストの教えを持たないが、キリスト者と名乗る者とは関わってはいけないということです。

- ・ しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はのろわれるべきです。（ガラテヤ人への手紙1章8節）

スライド34では、この手紙が書かれた時代には、巡回伝道者がいて、宿泊はキリスト者宅に泊まることがあったのです。彼らが惑わす者であれば、関わってはならないということです。

スライド35

パウロが宣べ伝えた最重要な福音とは

- ・ わたしがあなたがたにもっともたいせつなことでして伝えたのは、わたしも受けたことであって、次のことです。（第一コリント人への手紙15章3～4節）
- ・ キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、
- ・ また、葬られたこと、
- ・ また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、

スライド35では、キリストの福音のもっとも大切な内容を示しています。

スライド36

1.11 そういう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。

- ・ この節の意味することは、異端の教えを広める者に協力することは、悪いことであるということです。
- ・ 惑わす者を助けることにより、異端の教えが広まり、人によっては異端の教えを受け入れるかもしれません。でもそうすることによって、永遠の命を受け入れる機会を失うかもしれません。
- ・ 世の中の人達が喜んで受け入れるからと言って、聖書と異なる教えをすることは悪いことです。

スライド36では、惑わす者の教えを広めることに

協力してはならないことを示しています。

スライド37

1.12 あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でたくはありません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りしたいと思います。私たちの喜びが全きものとなるためにです。

・顔を合わせて語りたいとは

・キリスト者は神の家族の一員であるから、他のキリスト者との交わりを家族のように持つのは当然であります。手紙をやり取りするだけではなく、実際に顔を合わせることで、神の御心に叶うことです。

・「ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。(ヘブル人への手紙10章25節)」

スライド37では、神の家族の喜びが全きものとなるために、顔を合わせての交わりを持つことを奨励しています。また、そのことをヘブル人への手紙10章25節でも勧めています。また手紙の中に書かれているように、近い将来、訪問するつもりであるという意図が見えます。

スライド38

1.13 選ばれたあなたの姉妹の子どもたちが、あなたによしくとっています。

・終わりのあいさつでこの手紙を締め括ります。

・選ばれたあなたの姉妹の子どもたち：
・他の地域教会の信者たちと考えられます。

スライド38で、手紙が締め括られています。

結びに代えて

この手紙のいくつかの要点をもう一度述べると、

- 1) キリスト者は愛の表現をする際に、聖書の御言葉に従順した愛の行いをする事。
- 2) 聖書の御言葉にとどまり続けること。
- 3) 惑わす者の布教活動には一切協力しないこと。

参考文献：

- Hayford, Jack W. *Spirit Filled Bible New King James Version*. Nashville: Thomas Nelson Publishers. 1991.
- 新改訳聖書刊行会 『新改訳聖書』 いのちのことは社 1990年
- Stamps, D.C. *The Full Life Study Bible King James Version*. Life Publishers International. 1992.
- Thomas Nelson Publishers. *New Geneva Study Bible*. New King James Version. 1995.
- Thomas Nelson, Inc. *The King James Study Bible* second edition. 2013.
- Thomas Nelson, Inc. *Nelson's Complete Book of Bible Maps and Charts* copyright, 1993.
- Thompson, F.C. *The Thompson Chain-Reference Bible Fifth Improved Edition*. Indianapolis: B.B. Kirkbride Bible Co., Inc. 1988.
- Tolle Lege Press. *1599 Geneva Bible*. West Virginia: Tolle Lege Press. 2015.
- Tyndale House Publishers. *Life Application Bible*. 1988.

- 1 本報告は、聖書を読み、イエス・キリストに関する理解をより深めることを目的としています。
- 2 ローマ人への手紙10章17節には次のように書かれています。「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」つまり、聖書を朗読することは、キリストについてのみことばを聞くことになります。キリストについて書かれた神のみことばである聖書から、キリストについての情報を受け取る必要があります。第二テモテへの手紙3章15節から、聖書はイエス・キリストについて書かれたものであることが分かります。「また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与えうる書物であることを知っている。」
- 3 スライド2の内容は次の URL から引用していません。
http://www.christian-life.jp/Bible_D02/Shinkaiyaku/2Jn/2Jn001.htm 2019年3月31日アクセス
- 4 <https://www.biblegateway.com/passage/?search=2%20John+1&version=GNV> 2019年4月1日アクセス。
- 5 この手紙の受取人は敬虔に生きる婦人です。かかる婦人が、間違っことをしていることをあからさまに指摘するのではなく、愛を持って、間違いを犯さないように警告しています。
- 6 *Nelson's Complete Book of Bible Maps and Charts*. p. 441.
- 7 *The Full Life Study Bible, King James Version*. p. 2014.

- 8 *Nelson's Complete Book of Bible Maps and Charts.* P.444
- 9 *Life Application Bible*, p.1550.
- 10 マタイによる福音書4章21～22節。
- 11 マルコによる福音書3章17節。
- 12 マタイによる福音書17章1～9節。
- 13 ルカによる福音書22章39～46節。
- 14 マタイによる福音書27章26～50節。
- 15 使徒の働き3～4章。
- 16 使徒の働き8章14節。
- 17 使徒の働き12章1～2節。
- 18 ヨハネの黙示録1章9節。
- 19 *Nelson's Complete Book of Bible Maps and Charts.* P.444.
- 20 *Spirit Filled Life Bible*, p.1940.
- 21 *Full Life Study Bible*, p.2015.
- 22 *New Geneva Study Bible*. p.1994.
- 23 Vincent's Word Studies による unto the elect lady の解説。
- 24 *Spirit Filled Life Bible*, p.1937.
- 25 スライドの内容は Cambridge Bible の Commentary から引用している。
- 26 ここでの子どもとは神の子どもと受け取ることもできる。「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。(ヨハネの福音書1章12節)」
- 27 マタイによる福音書13章10～17節。
- 28 *Full Life Study Bible*, p.2015.
- 29 下線は著者による。
- 30 Popular New Testament の commentary から引用しています。
- 31 *Full Life Study Bible*, p.2015.
- 32 御父と御子を否認することに関しては、第一ヨハネの手紙2章22～23節を参照すること。
- 33 *John Gill's Commentary* から引用しています。
- 34 *The King James Study Bible*. p.1881.